

平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金
(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)
分担研究報告書

市町村ごとの予防給付単位平均と境界期健康寿命との相関

研究分担者 伊藤智子 筑波大学医学医療系 助教
研究協力者 渡邊多永子 筑波大学医学医療系 客員研究員
研究協力者 川村 顕 早稲田大学政治経済学術院 准教授
研究代表者 田宮菜奈子 筑波大学医学医療系 教授
筑波大学ヘルスサービス開発研究センター センター長

研究要旨

本研究は、全国介護給付実態調査データを用いて市町村ごとの要支援認定者一人当たり予防給付単位平均（＝予防給付単位合計／要支援認定者数）を算出し、境界期健康寿命との相関を分析することを目的とした。境界期健康寿命との有意な単相関はみられなかった。今後はこの市町村ごとの要支援認定者一人当たり予防給付単位平均を、境界期健康寿命を従属変数としたエコロジカルスタディにおける共変量の一つとして分析し、境界期健康寿命に関連する市町村の特徴を明らかにすることが課題である。

A. 研究目的

本研究は、2006 年 4 月～2016 年 3 月全国介護給付実態調査データを用いて市町村ごとの要支援認定者一人当たり予防給付単位平均（＝予防給付単位合計／要支援認定者数）を算出し、境界期健康寿命および健康寿命との相関を分析することを目的とした。

B. 研究方法

本研究では 2006 年 4 月～2016 年 3 月の全国介護給付実態調査データを用いた。データは厚生労働省に利用申請をして提供を受けた。

予防給付単位の算出は、集計情報ファイル (T1 ファイル) に含まれる被保険者番号 (市町村を示す)、決定済給付単位、要介護

状態区分を用いた。要介護状態区分が要支援 1、要支援 2 のケースを抽出し市町村ごとに月別の合計単位を算出した。

要支援認定者数は、受給者台帳ファイル (M ファイル) に含まれる被保険者番号、要介護状態区分を用いた。要支援 1 あるいは要支援 2 の者の市町村ごとの人数を月別に算出した。

市町村ごとに予防給付合計単位を要支援認定者数で除して、市町村ごとの要支援認定者一人当たり予防給付単位平均を算出した。

市町村ごとの要支援認定者一人当たり予防給付単位平均と境界期健康寿命および健康寿命との相関を分析した。境界期健康寿命、健康寿命は平成 28 年度に本研究課題で

報告された結果を用いた。

(倫理面への配慮) 本研究は筑波大学医の倫理委員会にて承認を得て行った。

C. 研究結果

全国で 1,808 市町村が最終分析対象であった。男女合わせた場合、1 市町村が欠損となり、1,807 市町村を対象として算出した。

市町村ごとの要支援認定者一人当たり予防給付単位平均は、全国で 2,338.2 単位(標準偏差 ± 454.2)であり、男性群で 2,173.5 ± 512.4 単位、女性群 2,398.9 ± 468.1 単位であった(表 1)。男女の群間差は t 検定を行ったところ、女性群の方が有意に多い傾向にあった(図 1)。

また、年月推移は 2015 年 3 月までほぼ横ばいであったが、2015 年 4 月に大きく減少した(図 2)。減少幅は、男性群で $\Delta 344.0$ 単位、女性群で $\Delta 376.0$ 単位であった。

都道府県別にみたところ、最も高かったのは石川県で 2,805.7 単位、最も低かったのは山梨県で 1,874.0 単位であった(図 3)。

境界期健康寿命との単相関をみたところ、有意な相関はみられず、健康寿命(要介護度 2 となった月齢、年齢)とも有意な相関はみられなかった(表 2)。

D. 考察

本研究で、全国介護給付実態調査データを用いて市町村ごとの要支援認定者一人当たり予防給付単位平均を算出した。市町村ごとの予防給付単位合計を要支援認定者数で除した値は、初めて明らかとなったもので、要支援認定を受けても予防給付そのものを受けていない者(未受給者)による影響も勘案する値を示すことができたと考えられる。

境界期健康寿命との有意な単相関はみられなかったが、今後はこの市町村ごとの要支援認定者一人当たり予防給付単位平均を、境界期健康寿命を従属変数としたエコロジカルスタディにおける共変量の一つとして分析し、境界期健康寿命に関連する市町村の特徴を明らかにすることが課題である。

E. 結論

本研究で、全国介護給付実態調査データを用いて市町村ごとの要支援認定者一人当たり予防給付単位平均を算出した。境界期健康寿命との有意な相関はみられなかった。

F. 研究発表

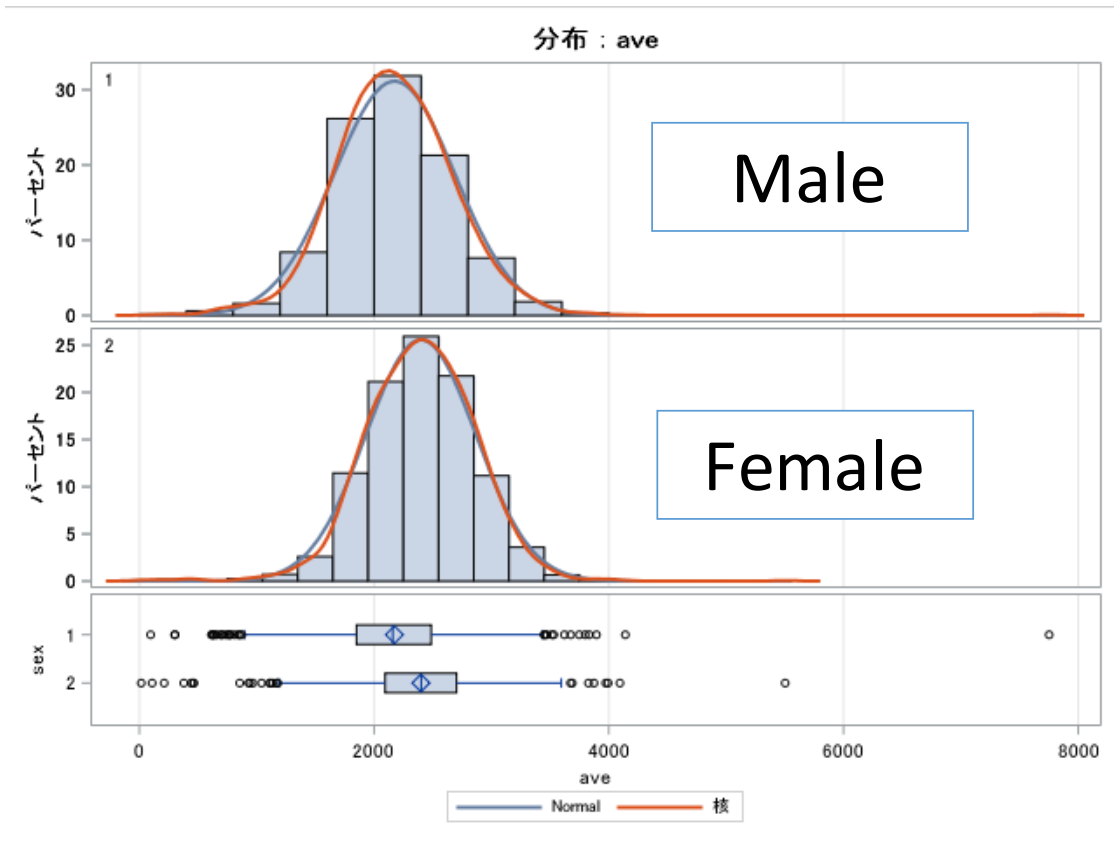
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表1 市町村ごとの要支援認定者一人当たり予防給付単位平均の分布

	All	Male	Female
n	1,807	1,808	1,808
Mean	2338.2	2173.5	2398.9
SD	454.2	512.4	468.1
100% 最大値	4108.6	7753.2	5502.8
99%	3346.3	3392.5	3432.6
95%	3062.2	2984.1	3123.1
90%	2899.9	2798.1	2963.7
75% Q3	2641.3	2486.9	2702.5
50% 中央値	2342.9	2159.4	2401.1
25% Q1	2036.4	1849.6	2094.1
10%	1795.4	1573.4	1841.0
5%	1650.4	1411.5	1689.9
1%	1196.6	894.8	1216.4
0% 最小値	29.8	96.0	15.2



手法	分散	自由度	t 値	Pr > t
Pooled	Equal	3614	-13.81	<.0001

t検定による

図1 市町村ごとの要支援認定者一人当たり予防給付単位平均の分布における男女差

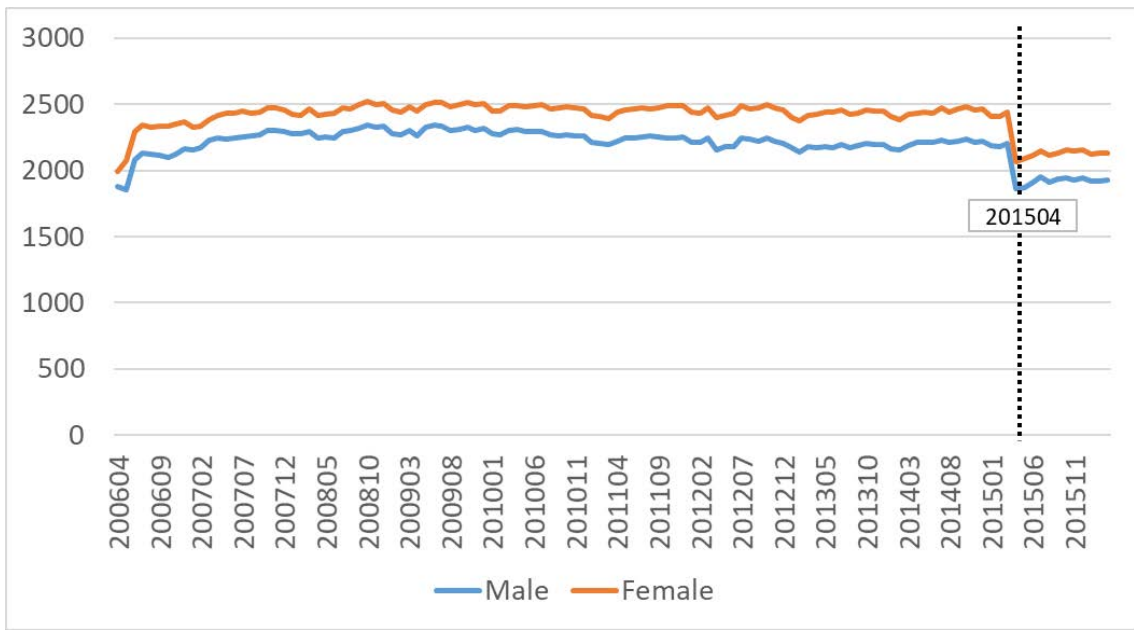


図2 市町村ごとの要支援認定者一人当たり予防給付単位平均の年月推移（男女別）

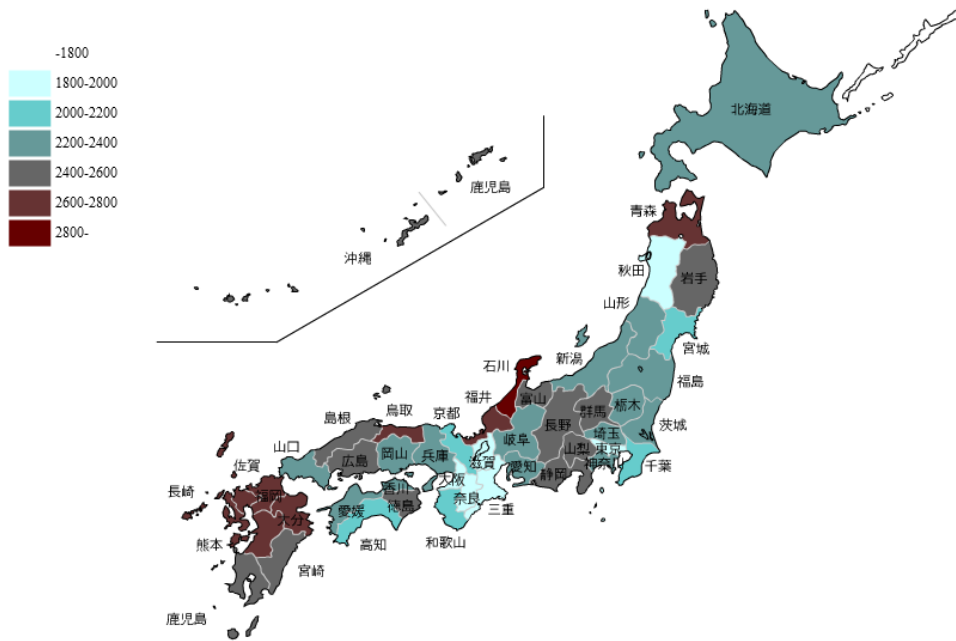


図 3-1 都道府県ごとの要支援認定者一人当たり予防給付単位平均（全体）

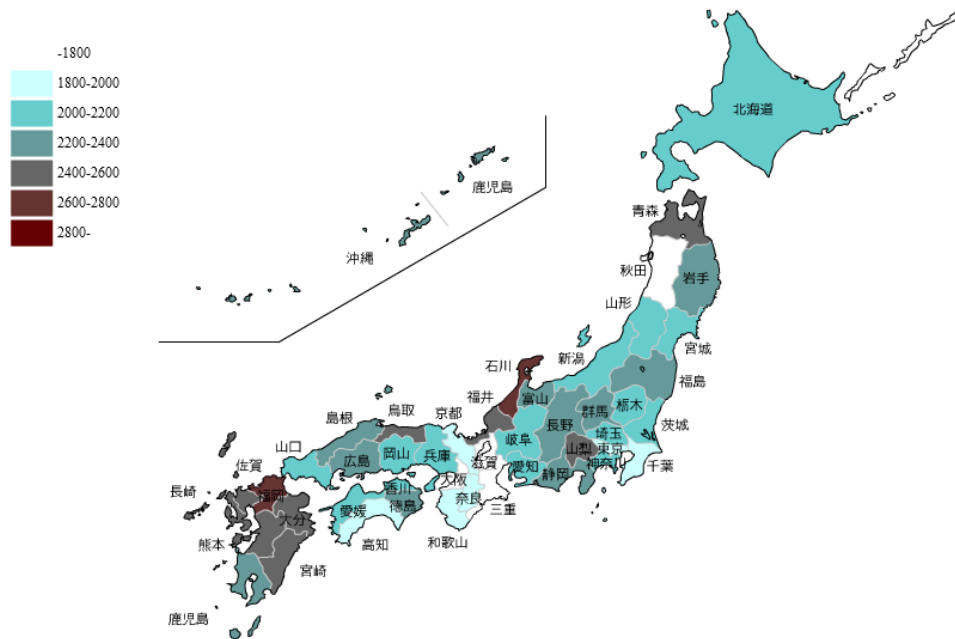


図 3-2 都道府県ごとの要支援認定者一人当たり予防給付単位平均（男性）

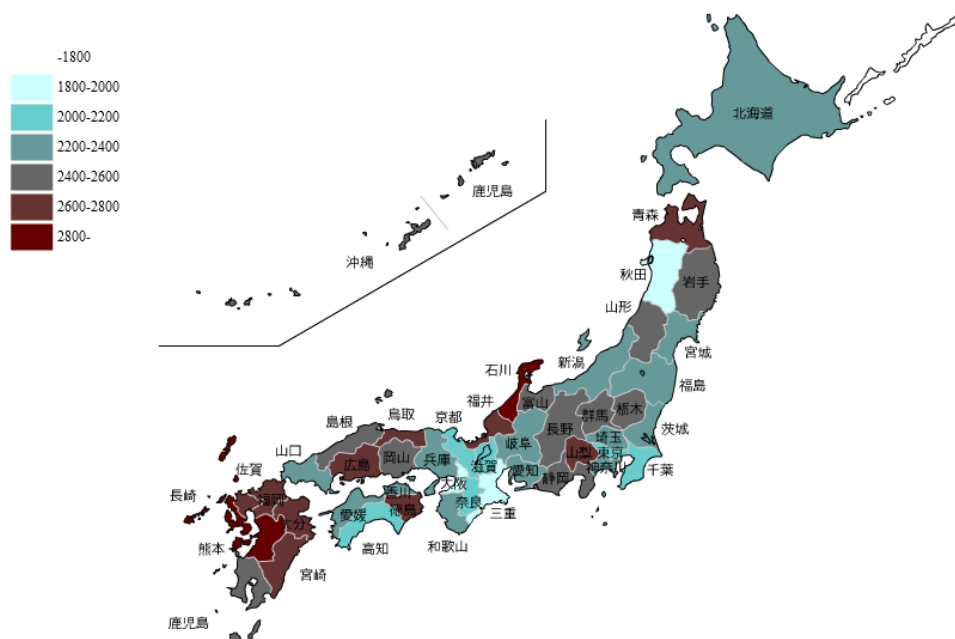


図 3-3 都道府県ごとの要支援認定者一人当たり予防給付単位平均（女性）

表2 市町村ごとの要支援認定者一人当たり予防給付単位平均と境界期健康寿命との相関

	All		Male		Female	
	Corr	p	Corr	p	Corr	p
境界期健康寿命	-0.002	0.925	0.034	0.177	-0.017	0.475
要支援初回認定月齢	-0.024	0.320	-0.017	0.488	-0.013	0.584
要支援初回認定年齢	-0.025	0.310	-0.017	0.494	-0.014	0.574
要介護2初回認定月齢	-0.024	0.320	-0.012	0.619	-0.016	0.523
要介護2初回認定年齢	-0.024	0.323	0.618	0.619	-0.017	0.482
Ratio	0.004	0.858	0.038	0.123	-0.018	0.461

(境界期健康寿命) = (要介護2初回認定月齢) - (要支援初回認定月齢)

(Ratio) = (境界期健康寿命) / (要介護2初回認定月齢)